

神奈川県にある児童養護施設の一職員より

先日はお忙しい中、見学をさせてもらいありがとうございます。また、子どものプライベート空間にお邪魔し、子どもたちにもご迷惑をかけました。里親になるという夢を持っている私は、すごく勉強になり、また、よい刺激をもらいました。

まだまだ勉強不足の未熟者の私ですが、見たこと感じたことを少しお話したいと思います。

まず、ファミリーホームということで、ひとつの家に子どもたちがすんでおり、どこにでもある普通の家庭の雰囲気を感じました。キッチンの前にある居間で、カニをみんなでわいわい食べ、その傍らで、おじさんがビールを飲んでいる。どこの家庭にでもある一コマです。その絵がほほえましく、また、私は「これこれ」と確信しました。

また、家の中をズケズケと好き勝手に見させてもらったのですが、本当に普通の家の中と全く変わりません。部屋には学習机(小さい子ばかりいるので使用はしていないであろう)、布団、TV、タンス、洗濯機…。全てが家庭にあるもので、そのうえ家庭サイズ！！

子どもも落ち着いており、こんな私にも少し微笑んでくれたりして、また、挨拶もきちんとしてくれました。少しですが、遊んでもくれました。そんなところからも家庭だからかなと思わせる感じでした。

廣瀬ホームの立地場所もどこにでもあるような住宅街の一角にありました。

忙しい時間の中ではありますが、廣瀬さんともお話ができ、大変よい時間を過ごせました。

今、私は神奈川県の児童養護施設で働いています。そこは小舎制で、「家庭的」を目指しています。毎食の食事作りをしたり、部屋の空間も家庭サイズであり、また、子どもの構成も昔の大家族な感じで、ひと部屋に6人いて男女混合の縦割りです。そこで働いていることに私は誇りを持っています。

しかし、「家庭的」を目指しているのですが、「施設の」をどうしても払拭できない部分があり、それならばと考えた結果が、「里親」でした。簡単にはありませんが、そういった経緯で今の考えに至っております。

私は漠然とした将来の里親生活の絵を毎日描いています。将来がすごく楽しみで、早く来ないかわくわくします。いろんな里親さんがおられると思いますが、可能な範囲で見学にも行きたいとも思っております。お邪魔して、いろいろ感じたいと思っています。 将来、里親になることを夢見て…